

令和3年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

ICTを活用した授業づくり研修会 6月30日（水）

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生

6月30日の「ICTを活用した授業づくり研修会」では、北部中学校：石川智大教諭の第1学年数学科の研究授業が行われました。

授業では、いくつかのつながった正方形を作るときに必要なマッチ棒の本数を求める方法について、ワークシートの写真をTeamsに投稿することで各自の考えを共有しました。写真の撮影や投稿はスムーズで、生徒たちはいくつもの写真をスクロールし、友達の考えを参考に自分の考えを修正するなどして学びを進めていました。



今回は、協議会でも端末を活用し、Teamsの共同編集で授業参観者の意見を1つのファイルにまとめ、協議に生かしました。接続の不具合もありましたが、ファイル上で互いの意見を共有することができました。

長谷川先生からは、石川先生の授業について、写真を投稿するという簡易な方法で意見を共有できたことや端末を使った授業に生徒が慣れていること等、取組の成果を述べた上で、今後キーボード入力も取り入れながらさらに活用を進めてほしいという助言をいただきました。最後に参加者は、研修会の感想をFormsのアンケートフォームに記入して送信し、研修を終えました。

電子黒板・実物投影機研修会 開催中!



6月16日 窪小にて

各校のご都合に合わせた日時、内容等で実施可能ですので、ご希望があれば、いつでも教育総合センター焼田までご連絡ください。

実際に体験してみたことで、翌日からの授業にすぐに活用できました!

参加者が電子黒板を使ってみる時間がたっぷりあり、分かりやすかったです!



7月5日 灘浦小にて

第1回 若手教員研修会「授業づくり」 6月9日（水）

講師：学力向上推進チーム 研究主事 宮城 涉 先生

『主体的・対話的で深い学び』に向けた授業づくり」と題して、授業動画を基に具体的に教えていただきました。授業の中で大切にしたい内容を分かりやすく説明され、参加者は、明日から取り組んでみようという意欲を大いに高めていました。



<参加者の感想から>

- ・動画で授業の様子を参観しながらの具体的で分かりやすいお話でした。学んだことを明日からすぐに取り組みたいと思いました。
- ・これからは、意欲を高める学習課題の工夫や、話合いや振り返りの場における「視点」を大切にしていきたいです。
- ・いつも自分自身がしゃべりすぎてしまうので、もっと子供たちの考えを引き出す授業づくりに取り組みたいと思いました。
- ・自力解決の時間を十分にとり、ねらいを明確にして共に学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりに努めていきたいです。
- ・「自分自身が楽しんで授業をする」ことを心がけていきたいです。

生徒指導連絡会

6月29日（火）開催

生徒指導上の諸課題に関する情報交換等を通して、指導・支援のより一層の充実を図るため、各校の生徒指導主事の参加を得て、「生徒指導連絡会」を開催しました。今回は不登校児童生徒への指導・支援をテーマに、不登校未然防止のための支援や予兆発見から初期対応の流れ等を確認しました。校種ごとや校区に分かれての話し合いでは、以下のような情報交換が行われました。



【小学校・義務教育学校（前期）】：ネットルールについて

- ・ネットに関する問題行動についてアンケートをとり、結果を参考に児童会でルールを決めている。
- ・中学校のネットルールを基にルールを決めるようにしている。（複数あり）
- ・保護者に家庭のネットルールをつくることを呼びかけているが、スマホ等は保護者にとっては楽で便利なので、ついつい使ってしまうという場合も多い。
- ・家庭で決めた約束を、保護者も一緒に守っている家庭では、子供もきちんと約束を守っていることが多いようだ。

【中学校・義務教育学校（後期）】：校則の見直しについて

- ・許されるソックスの種類等、教職員で協議し、決定したものもある。
- ・髪型等、見直しの必要を感じる内容もあるが、生徒が決めると妥当なものになるかどうか懸念がある。
- ・男子、女子の表記等、時代に合っているのかどうかと思うこともある。



スマホやネットの利用を含め、今後も情報共有や連携を大切に、氷見市全体として生徒指導の推進を図っていきたいと思います。

第1回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

6月22日（火）開催

「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」は、学校、教育委員会、関係機関及び団体が連携し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決を図るために、氷見市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱に基づいて、年2回開催しています。本委員会の委員長である佐原孝信校長先生（中学校長会長）に司会をお願いし、市内のいじめ問題の状況等について協議しました。委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。



- ・現在学校では、児童生徒に関する情報共有や共通理解をきめ細かく行うようにしている。軽い気持ちで発した言葉が人を傷つけるということがよくあるので、「ほかほか言葉」の掲示等の取組を進めている。
- ・いじめの相談があれば、家族や学校、児童相談所等と連携して対応していきたいと思う。
- ・いじめ被害があると、無口になる、食欲がなくなるなどのサインがあるとされている。これらのサインを保護者に伝えることも大切ではないか。
- ・PTAの取組としても、いじめに関する何らかの動きをつくっていければよいと思う。
- ・各校のいじめ防止等の対策のための会議に、民生委員や主任児童委員を加えてもらえないか。
- ・家庭環境の不安定さも、いじめ問題の要因の中にあるのではないかと思う。コロナ禍で生活が不安定になっている家庭が増えており、どう支えていくかということは、子供にも影響する課題だと思う。
- ・最近、リストカットをする子供が増えたと感じている。いじめとも関わる児童生徒の心の問題として、小・中学校段階で対応や支援が必要だと思う。
- ・「いじめの芽」にどれだけ早く気付くかということが大切だと考えている。気付く感覚を磨いていきたい。
- ・ネットいじめは特に指導が困難であるが、関係機関の方々からも多くの助けがあることが分かり、心強い。


教育委員会事務局として、協議会での貴重な意見や提案を参考にし、関係機関等との連携を一層深め、いじめ問題への対策を推進していきたいと考えています。各学校においても、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を着実に推進していただきますよう、お願いいたします。

おすすめ図書の紹介
～教育セミナー等講師著書～

本年度、「Q-Uを活用した魅力ある学級づくり研修会」「教育セミナー」「学力向上研修会」で講師を務めていただいている水上和夫氏、菊池省三氏、露木和男氏の著書を購入しました。学力向上の

基盤となる学級づくりや授業改善において参考になる内容です。ぜひ、ご活用ください。

教育総合センターではこの他にも多くの図書を購入しています。後日、改めて紹介します。




エンカウンターで学級づくりの極意
水上 和夫 著
明治図書

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、活用が広がっているグループ学習。本書では、集団の力を活用したカウンセリング手法である「構成的エンカウンター」のスキルを用いて、子供たちの学びを深めるグループ学習展開のコツを提案しています。具体的な授業場面を取り上げて紹介しているので、明日からの授業にすぐに役立ちます。


構成的エンカウンターを適切に取り入れれば、学級は温かくなり、子供たちの自己肯定感もどんどん育っていきます。

エンカウンターをベースにした学級づくり・授業づくりを進めてきたスペシャリストが、数多くのエクササイズとともに、今、その極意を大公開します。




エンカウンターで学級づくりの極意
大友英人・水上和夫 著
図書文化

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、活用が広がっているグループ学習。本書では、集団の力を活用したカウンセリング手法である「構成的エンカウンター」のスキルを用いて、子供たちの学びを深めるグループ学習展開のコツを提案しています。具体的な授業場面を取り上げて紹介しているので、明日からの授業にすぐに役立ちます。



菊池学級 12か月の言葉かけ
菊池 省三 著
小学館


毎日一人ずつの子が学級全員からほめ言葉を浴びる「ほめ言葉のシヤワー」、教室内で同時多発的に展開する白熱したディベート授業等、時代を先取りし「他者と協働しつつ生涯学び続ける力」を育ててきた菊池省三先生の実践。本書はその実践を「子供への言葉かけ」という視点から、四月～三月の時間軸に沿って紹介しています。



菊池省三 365日の言葉かけ
菊池省三・菊池道場大分支部 著
明治図書

「言葉で人を育てる」という理念を大切に指導を続けてきた菊池省三氏が、「この言葉かけで子供を育てることができる」と確信した言葉を集めたものです。


全国のどの教室にもある授業場面を取り出し、その場面に合った具体的な言葉かけを、一四〇個例示しています。



授業の思想
露木 和男 著
明治図書

神奈川県公立小学校に一三年、筑波大学附属小学校に二四年、三七年間小学校の教師として勤めた後、早稲田大学教授となった筆者が、「授業者としての生き方を求めて」と副題を付けて記した一冊。

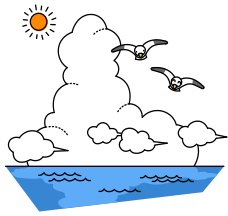
プロローグ「教師はいかにして授業者として生きるか」に始まり、「子供が学ぶということの意味」等、全五章で構成されています。



きせつのずかん
全4(春夏秋冬)巻
露木 和男 監修
岩崎書店

小さい頃より自然が好きで、野山を駆け回っていた露木氏が、子供たちにも身近な自然に親しんでほしいという願いを込めて監修した図鑑です。優しい色遣いとかわいいイラストの吹き出しが、見るものの心をほのぼのとさせてくれます。

「さあ、外に出て見にいきましょう！そして友だちになりましょう。」(はじめに より)



ALTからのメッセージ

ALTのデビン先生、エド先生、スッチー先生が、7月で氷見市の勤務を終えられました。今後は、それぞれの夢に向かって日本や母国アメリカで次のステップに進まれます。メッセージをいただきましたので紹介します。



Hello. I think that most of you know me but my name is Devon Redlin. I have lived in Himi for 6 years. I was very lucky to have lived and experienced life here. I was able to join events such as Himi matsuri and Marumage matsuri. I enjoyed fresh fish and Himi gyu. I will miss Himi's students and teachers. Each school has its own charm and experience. I will be moving to Tokyo to continue teaching children.

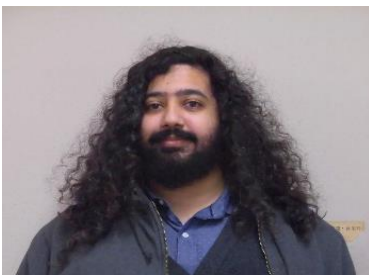
Himi has become my second home and I will always have it in my heart. I am planning to come back and visit Himi in the future. Thank you to everyone I have met and I wish you the best.



Being in Himi for three years has been incredibly rewarding experience that will remain in my heart forever. Being able to spend time with the students, playing with them, talking to them, and teaching them about English has made me grow in ways I never thought I could, and hopefully I was able to help the kids too while I was here.

Everyday, as I left work and drove back home, I would look at the mountains, the people, and all my surroundings and was constantly reminded that I really did live in Japan. It's something that is still hard for me to believe, as I never left my home town before coming to Himi. But today I know that doing so was the best decision I have made in my life so far.

I leave Himi now, but I will soon be back to visit! I will remain in Japan for now, and hopefully get to visit Himi's many great views and nature again. Until we meet again! Take care!



I have had lots of fun living in Himi. I actually didn't know about Himi or Toyama prefecture before I came here. But I was lucky to live in a town with lots of nature. It was great to live so close to the sea, and I could see beautiful mount Tate on a sunny day. The food was delicious, too. I really loved Himi's fresh fish, especially buri. I was also surprised at how many Indian curry shops are in Toyama prefecture.

Teaching at many of Himi's schools was great. I got to meet many good children. I was also able to make good friends. Even though I only lived here for 3 years, Himi felt like home. When I would go on a trip to Kobe or Shizuoka and I was driving back, seeing the stores on Himi highway made me feel, "I'm back." I'm sad that I'm leaving Himi now, but I'm happy that I got to experience life here.

